

令和5年9月6日（水曜日）

中小河川での事前防災が課題

足立参院議員



京都府舞鶴市の被災現場を視察する足立氏（右から2人目）
足立敏之事務所提供

自民党の足立敏之参院議員は8月25、26日の2日間、台風7号で被災した鳥取、兵庫、京都の3府県を視察した。近畿地方に同15日上陸した台風により3府県に大きな被害が出た。足立氏は「中小河川での事前防災が課題だ」との考えを示し、流域のあらゆる関係者が協働する「流域治水」の有効性や必要性を改めて提唱。今回犠牲者は出なかったが「流域治水という考え方であらゆる手だてを講じ、犠牲者が出ないようにつとめることが大事になる」と指摘した。

足立氏は3府県を訪ね、被災状況と復旧対応を把握した。災

台風7号被災3府県を視察

害対応や復旧に当たる国土交通省や地方自治体、建設業団体の関係者らと意見交換し、今後の課題なども確認した。

鳥取県では佐治町、八頭町を訪問。佐治川上流にある県管理の佐治川ダムは完成して50年が経過しているが、今回初めて緊急放流を行ったという。鳥取市と県が連絡を密にし、流域住民に十分な情報提供を心がけたことで大きな問題は起きなかったと報告を受けた。

兵庫県では香美町、豊岡市日高町を視察した。住宅3棟が土砂に巻き込まれた現場に行き、コンクリートの擁壁とともに崩れた土砂が住宅に流れ込んでい

る状況を確認した。

京都府は福知山市、舞鶴市、綾部市の被災状況を調査した。舞鶴市では排水機場の整備や下

流部の拡幅など河川改修事業が進んでおり被災後、河川インフラにより浸水被害が大きく軽減されていたことを確認した。綾部市物部町では犀川（さいがわ）が越水し、浸水被害が発生。足立氏は「堤防のかさ上げや河床掘削が必要となる」と指摘した。被災地の視察を通じて足立氏は「国が管理する河川などでは防災・減災、国土強靱化のための治水対策の効果が現れている」と評価した。一方、「線状降水帯で集中的な豪雨に見舞われた中小河川での被害は大きく、今後どのように事前防災を行うかが大きな課題だ」との考えを示した。